２０２３年（令和５年）　７月２７日　木曜日
東奥日報　１４面　掲載

第105回 全国高校野球 青森大会

きょう決勝

第105回全国高校野球選手権青森大会は最終日の27日、弘前市のはるか夢球場で、2年連続で同じ組み合わせとなった八工大一―八学光星の決勝を行う。両校の選手たちは26日、打撃や守備練習に取り組み、大一番に向け闘志を燃やした。

昨夏の決勝は八学光星が6―5で勝利。一方、両校は今春の県大会決勝でもぶつかり、その際は八工大一が3―2で競り勝つなど力は互角だ。

12大会ぶり6回目の甲子園出場を狙う春の県王者・八工大一は、小技や積極的な走塁で好機を広げ、勝負強い打撃で勝ち上がってきた。準決勝では5番杉山が今大会チーム初の本塁打を放つなど、状態が上向いている。投手陣は大黒柱の金渕が、投球回数を上回る28三振を奪うなど好投を続ける。一方、3試合で321球を投じており、疲労面が懸念材料。

2年連続12回目の頂点を狙う八学光星は、今年も打線が強力だ。本塁打は中澤恒、藤原が2本ずつ放つなど計6本をマーク。上位から下位まで切れ目がなく、チーム打率は3割8分5厘を誇る。準決勝の青森山田戦で完封した2年生左腕の洗平は、最速147㌔の直球を武器に16回⅔を投げ1失点と安定感抜群。岡本や越智も力があり、投手陣の層は厚い。

決勝は午後1時プレーボール。

（本紙取材班）

光星

打線切れ目なし

打線が好調な八学光星。26日のフリー打撃でも鋭い打球を飛ばしていた＝八戸市の八学光星グラウンド

工大一

好機に勝負強さ

八工大一は弘前市内のグラウンドで午前9時から約3時間、打撃練習や守備練習など通常通りのメニューを消化した。

八学光星投手陣を想定した打撃練習では、左右の打撃投手の球を黙々と打ち込んだ。チームの持ち味でもある犠打も念入りに練習した。終始はつらつなプレーを見せたノックでは、守備の連係を確認。投手陣も20球ほど投げ、感覚を確かめた。

主戦金渕、主将長谷地を中心に守備から攻撃のリズムをつくり、小技や足を使って得点を重ねてきた。今大会は下位打線の打力も光る。

金渕は「ここまで来たら勝つしかない。打たせて取る投球で勝利をつかみたい」と力を込め、長谷地は「去年のリベンジに燃えている。劣勢の場面もあると思うが、楽しんでやりきりたい」と意気込んだ。（棟方好華）

「リベンジに燃えている」

「一人一人が役割果たす」

八学光星は八戸市内の同校グラウンドで、午前8時半から3時間ほどキャッチボールやノック、フリー打撃などで調整。選手たちは「集中！」「ナイスプレー」などと声をかけ合いながら、疲れを感じさせない動きを見せた。

準決勝までの4試合で38得点を挙げ、今年も持ち味の打撃力を存分に発揮。フリー打撃では、八工大一の投手陣を想定した打撃投手を相手に鋭い打球を飛ばした。

八工大一のバントなどの小技を絡めた攻撃に対応するため、守備の連係も入念に確認していた。厳しい暑さの中での試合が続いているが、主将の中澤恒は「（自分の）調子はいい」という。「一人一人が役割を果たせばおのずと結果はついてくる。ここぞという場面でしっかり打ちたい」と力強く語った。（相澤賢斉）

八工大一、八学光星の今大会成績

	試合数	得点	失点	打数	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打率	犠打	盗塁	失策
八工大一	4	33	8	114	40	5	0	1	.350	14	7	4
八学光星	4	38	9	122	47	11	1	6	.385	6	5	2

走者出さないように

▷八学光星・仲井宗基監督　八工大一は力のあるチームで、決勝は総力戦になる。相手にランナーを出させず、隙をつくらないようにしたい。どの投手が来てもしっかりプレッシャーをかけて攻めていく。自分たちの力を最大限に発揮し、決勝にふさわしい試合にしたい。

接戦に持ち込みたい

▷八工大一・長谷川菊雄監督　投打で力のある八学光星に、チャレンジャー精神を持って食らいついていきたい。守備で乱れずに最少失点に抑え、できる限り接戦に持ち込めれば。八工大一らしく元気にプレーし、今まで練習してきた成果をはるか夢球場で披露したい。

東奥日報社提供
この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです